

公開セミナー報告要旨(平成22年8月10日)

中国の貿易戦略の現状と今後の方向

北京大学経済学院教授 章 政

中国は毎年10パーセント前後の経済成長を続けていますが、それに伴って貿易額も著しく拡大しています。貿易額の伸びは中国がWTOに加盟した2002年以降に特に大きくなっており、2002年に5千億ドル程度であった貿易総額は2008年には2兆5千億ドルを超えました。

2008年の世界金融危機の影響によって、中国の輸出入の伸び率も2008年10月から2009年10月までは前年同月比がマイナスとなる状態が続いていましたが、2009年11月からプラスに転じ、2010年に入ると前年同月比数10%の大きな伸びを示すようになってい

ます。金融危機以後の中国の貿易の大きな特徴として指摘できることは、シンガポール、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアといったASEAN諸国との貿易が大きく伸びたことです。2010年第1四半期の貿易額でみると、中国からASEANへの輸出が前年同期比46.7パーセントの増加、中国のASEANからの輸入は76.6パーセントの増加となっています。すなわち中国の貿易の回復はASEANの経済回復を促し、両者の経済的関係を従来以上に深めたと言えるのではないのでしょうか。

中国の貿易の方式では、加工貿易が重要な役割を果たしています。輸出では加工貿易の占める比率は約50パーセントであり、輸入でも約30パーセントを占めます。また、貿易の企業形態では、輸出入ともに外資企業が半分以上を担っています。こうした、貿易の方式および企業形態の実態は、中国の貿易が強く外資企業に依存していることを示すものです。中国の今後の貿易の安定と発展はこうした外資企業との併存の中で模索されることとなるでしょう。

中国では、現在、貿易の発展とともに、FDI(対外直接投資)の拡大を国家戦略として積極的に進めています。FDI額は年々増加しており、2007年のFDI額は265億ドル、2008年には倍増して559億ドルとなりました。

FDIの地域分布はアジアが圧倒的に多く、全体の71パーセントを占めます。それに次いで多いのがラテンアメリカで18パーセントです。分野別には商業サービス、金融業、卸と小売、鉱業という順に多くなっています。これは、中国のFDIがまだ商業店舗の開設や建設労働者派遣サービス等の簡易なものにとどまっているためです。また、中国のFDIでは、資源輸入の延長として外国鉱業企業の買収等が行われており、鉱業のFDI額が多くなっているのはこのためです。

近年では中国企業によるM&Aが急激に増加していますが、これらの多くは国有企業主導によるものです。今後のFDIの発展のためには民間企業の参加が必要ですが、現在ではまだ多くありません。

中国は2000年ごろまではWTOへの加盟による貿易拡大という伝統的路線をとっていましたが、2001年にタイとの間でFTAを締結したことを契機として、WTOの多角的貿易を補足するものとしてFTAを積極的に推進するようになりました。

FTAは、中国にとって、香港やマカオとの地縁的結合の強化、湾岸協力理事会や南部アフリカ関税同盟との資源確保、パキスタンやASEANとの地域関係強化といった各種の政策目的を持つものです。

なお、APECは、従来、中国の貿易戦略において重要な地位を占めていましたが、近年ではその重要性が衰えています。これは中国の貿易黒字をめぐってアメリカとの溝が深くなっているためです。中国にとって望ましいと考えられるのはアメリカを除いた東アジア自由貿易協定です。

(文責：河原昌一郎)